

<高付加価値な地域農産物の栽培、加工・販売などに取り組む事例>

○地場特産農産物による地域活性化に取り組む

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	石川県鳳珠郡穴水町上中協定 <small>ほうす ぐんあなみずまちかみなか</small>			
協定面積 13.9ha	田(100%)	畑	草地	採草放牧地
	米、転作(キリシマツツジ)			
交付金額 299万円	個人配分			45%
	共同取組活動 (55%)	農地の保全管理、景観作物の作付・管理費		5%
		農道・水路の維持管理・補修等費用		30%
		役員報酬、事務費、積立額		20%
協定参加者	農業者24人、農事組合法人(構成員6人)			開始:平成12年度

2. 制度取組の経緯

当集落は、穴水町北部の山間地に位置する四村と呼ばれる地域で、中世に輪島市總持寺から羽咋市永光寺まで峨山禅師によって開かれた古道「峨山道」に面していることに因んで、「峨山キリシマの郷」として村興しを行ってきた。

四村の上中と桂谷は、農業者の6割が65歳以上という高齢化集落であり、第3期対策より2集落が統合して本制度に取り組んでいる。さらに、制度の活用により、疲弊してきた地域を活性化させようと、能登で古くから愛好されている深紅のキリシマツツジの特産化と、地域で収穫される米のブランド化に取り組んでいる。

3. 取組の内容

農業生産活動のほか、地場農産物の加工・販売に取り組み、休耕田を活用したキリシマツツジの育苗や、景観づくりの為に植栽を集落ぐるみで行っている。

また、年に二度実施する峨山キリシマ即売会は、県内外からの大勢の来場者で賑わうようになってきており、販売方法や栽培技術の改善を行い、より付加価値の高い「峨山キリシマ」を提供している。さらには、清流の水で育てた米のブランド化にも取り組み、「峨山キリシマ」と同じく「峨山道のお米」とネーミングし、清流の「青」と、キリシマの「紅」を連想させるパッケージを作成し、販路拡大を図っている。



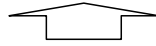
【休耕田に植えられた峨山キリシマ】



【峨山道のお米のパッケージ】

[集落の将来像]

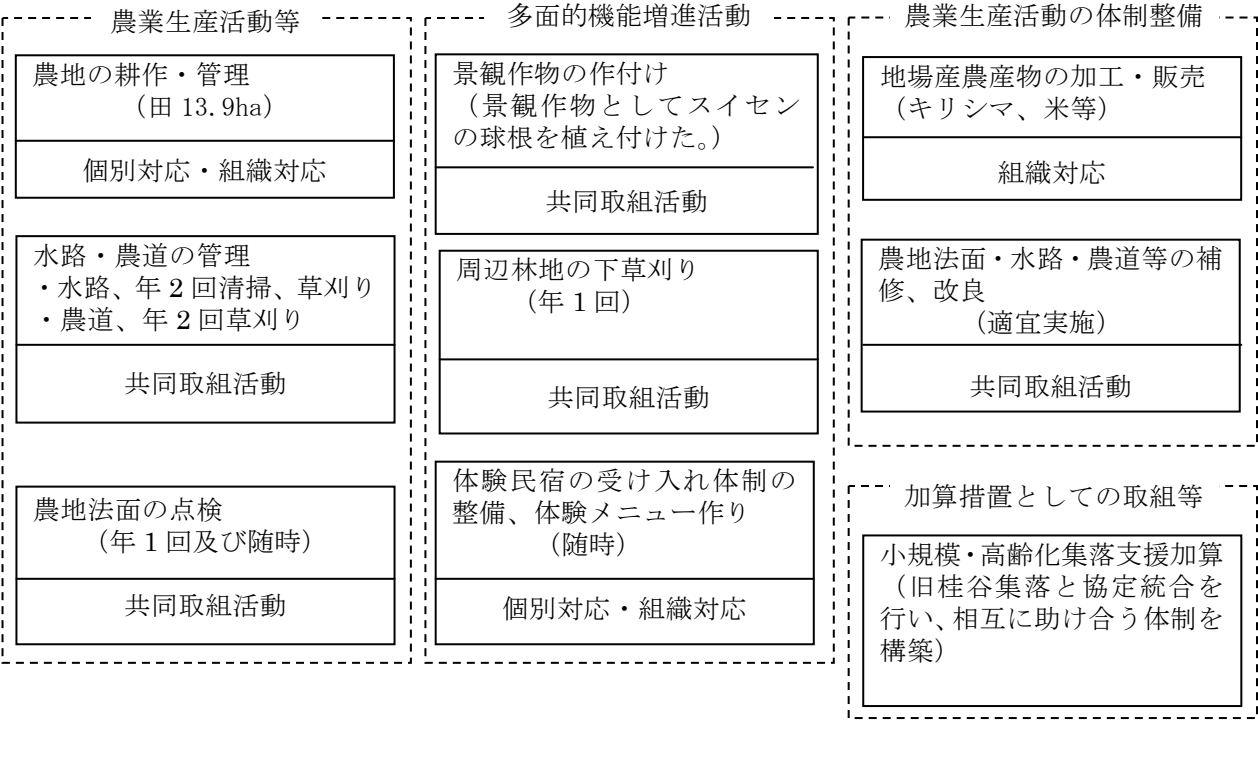
キリシマツツジと米などの地場産品の特産化を推進し、集落ぐるみでPRや販売活動を行うことで、やりがいと魅力ある営農スタイルを確立し、耕作放棄の防止と農地の保全管理を行っていく。



[将来像を実現するための活動目標]

○休耕田で栽培した「峨山キリシマ」と美しい水で作った「峨山道のお米」の付加価値販売を行う。

[活動内容]



[集落外との連携]

東京の「NPO 田舎時間」と連携し、稲刈りなどの農作業や、キリシマツツジの雪囲いなどの作業補助などの、農業体験交流を実施している。

4. 今後の課題等

農業体験や体験民泊などによる集落の交流人口の拡大を図り、「峨山キリシマ」の付加価値販売、「峨山道のお米」のブランド化を実現し、農業体験等の受け入れ体制、施設を整備することなどが今後の課題と考えている。

[これまでの主な効果]

- 担い手への農地集積
 - ・協定農用地の集積 3.5ha
 - ・耕作放棄地の復旧 1ha
- 峨山キリシマを中心とした地域活性化
 - ・峨山キリシマ即売会の定期的な開催。(来場者約1,000人/年)
 - ・峨山キリシマの植え付けによる景観の向上と、峨山キリシマの郷のイメージの定着。
- 峨山道米のパッケージングと販路拡大